

1 八王子市の震災危険と復興の課題

八王子市に予想される震災被害と事前復興対策の必要性

東京都が平成24年度に発表した調査によれば、多摩直下の地震では、八王子市にも大被害が生じるとされています。

被害が少なければ災害前の生活に戻す「復旧」ができませんが、大被害の場合は、住宅を再建し、暮らしを元に戻すには容易ではありません。

平成7年1月の阪神・淡路大震災では、住まいや街並みを再建し生活を軌道に乗せる「復興」に、長い時間がかかりました。平成23年3月の東日本大震災ではもとの生活を取り戻すために今、なお大変な苦闘が続いています。復興は、行政だけでなく市民、事業者、専門家などみなさんが力を合わせないと進みません。これまでの教訓から復興のすすめ方についてあらかじめ準備をしておくこと（事前復興）が重要です。



建物の全壊7,006棟



火災で焼失6,599棟



避難者人口128,646人



震災廃棄物206万トン

八王子市の地域特性と復興課題

八王子市は、市域も広く、様々な特性の市街地で構成されています。大地震の時でも、地域によって被害の様相は異なるでしょう。震災復興の検討にあたって、市街地での被害と復興課題を検討しました。

III 宅地化進行地

農地から市街化した箇所では住まいの再建や道路不備の改善などが課題になりそうです

II 産業系既成市街地

電力等ライフライン被害で都市活動が停止することが課題になりそうです

I 住宅系既成市街地

住宅の被害や火災の発生があるかも知れません。被災生活の維持が重要な課題です

集落混在地

山地に近い一帯では、ガケ崩れ等の地盤災害で、集落の孤立や再建が課題になりそうです

ニュータウン

被災後に協力し合っていくこと、マンション再建や補修が課題になりそうです



IV 宅地造成住宅地

斜面地の擁壁やブロック塀被害で道路の閉塞が起きるかもしれません

震災後の復興経過の時間的目安

被災直後は助け合いや消火、避難など応急活動が行われ、避難生活に移り、一方で復旧活動が展開されます。大被害の場合は、その後まにまや生活の「復興」が必要で、5～10年かかると考えられます。そのような復興について時間的な目安を、右図のように想定しました。



対策の推移	災害応急対策	災害復旧
	緊急対応期	避難生活期
概ねの目安	直後	～1週間
全体的な状況	・災害対策本部を設置する ・消火、救助、炊き出し等を実施	・避難所の生活が続く ・電力等の復旧が進む
都市復興の目標スケジュール	・被害調査の実施 ・災害復興本部の設置 ・復興へのメッセージを出す	・都市復興基本方針を出す ・復興の重点地区を定め建築制限をかける
	初動体制の確立	災害復興基本方針の策定